

「あなたの会費が国大化学会と大学・学生を支えています」  
会費納入の現状と今後の会費納入促進対策について（お願い）  
寄付金の全額が、平成26年度より学生支援金になりました

会費納入促進 G

坂本 泰一（平成2年物工卒）

本間 昭弘（昭和44年2部応化卒）

はじめに

昨今、同窓会の役割が、従来の卒業生の懇親会的位置づけから、大きく変化しています。すなわち、法人としての大学への参加協力、学生への具体的支援の比重が大きくなってきています。

私たち卒業生は、これらの変化を敏感に受け止めての活動が必要です。そのために、会費納入状況は、十分ではありません。皆様に、その実情を知っていただくとともに、今後の同窓会をより強固にしていこうではありませんか。対策への御協力をお願いいたします。

（現状）

① 同窓会の運営は赤字

平成26年度は約110万円の赤字でした。平成27年度も、予算は、58万円の赤字予算を組んでいます。これまでの繰越金を切り崩して運営していますが、このままでは10数年後には同窓会を存続できなくなります。

② 会費納入者が少ない

赤字の原因として、会費納入者が少ないことが原因の一つとなっています。平成26年度は、全会員6,800人のうち、会費納入者（延べ人数換算）は1,636人でした。（25年度より、95人増加）

③ 連絡先不明者が多い

現在、連絡先がわからず、会誌が届かない方が2,930人います。これは、卒業生の約43%です。

（対策）

① 連絡先不明者の掘出しと連絡先不明化の防止

同窓委員の皆様をお願いしてクラスまたは研究室の不明者の住所を調べていただきます。抜本的には、平成27年度に設立の国大校友会と協力して連絡先（親元を含む）を登録していただき、不明者をなくして行きます。

② 会費納入率の向上

会費の振込みは、郵貯銀行が中心になっていますが、銀行（横浜）振込み口座の方法も紹介しています。同窓委員の方より、他の会員の方に会費納入の呼びかけをさらにしていただきます。

また、27年度より発足の新入生からの同窓会費（3万円）の納入者向上を目指します。

会費納入を促進するために、皆様から具体的対策などのご意見をお願いしています。

平成26年度より新たに、博士課程に進学する学生に対する一時支援金制度が発足しました。26年度実績は、5人に150万円を支給しました。会則変更により、会費納入時に振り込まれていた寄付金の全額を学生支援金会計に繰り入れました。26年実績58万円でした。これからの日本の将来を背負っていく横浜国大の学生をこれまで以上に応援しようではありませんか。ご理解頂き会費納入と寄付金増額をお願いいたします。

（文責 本間）